3月～6月のイベント情報

※協会主催・後援、協会加盟団体の催しを中心に掲載しています。その他の催しは八丈島文化協会サイト内の「八丈島イベントカレンダー」をご参照ください。

3月20日（月・祝）	自衛隊音楽隊公演
4月16日（日） 23日（日）	檜之扇会日本舞踊おさらい会 杉の森合唱団（世田谷区）八丈島公演 （協会後援）
5月27日（土）	廃品打楽器グループ「ティコボ」音楽会 （NPO あびの実主催、協会後援）
6月11日（日）	檜会日本舞踊発表会

＜富士見地区公会堂ミニ情報＞　ご存知でしたか、集会室（ホールに）に大型ミラーが設置され、トイレが一部洋式になったことを。要望で少しずつ改善されています。

文協コラム『南風』 No. 11

昨夏の暑い日、私は国立オリンピック青少年センターでNPO法人「子ども文化地域コーディネーター協会」が、全国から公募した「笑顔あふれる地域イベントアワード」コンクールの審査員として、応募された34地域の創造的なイベントの審査に当っていた。◆　この協会は、文化は誰にでも等しく文化権として与えられた固有の権利として、文化を通じた地域づくりを目標に全国展開の活動をしている。アワードはその事業のひとつだ。◆　全国から応募のユニークな地域人たちのイベントは、近年マスメディアからも注目されつつあり、前年には我が八丈島の「劇団かぶつ」が、八丈語の保存と島ことば劇の活動が評価され、全国の6団体に与えられる優秀賞に輝いた。◆　協会派遣の審査員のほか、会場に集結した多くの聴衆も1票の投票権を持ち、イベント団体のプレゼンを聴き、各ブースを巡って審査するユニークな方法で優秀賞を選定する。◆　今年はと言うと私の出身地（新潟県上越市）で半年近く雪に閉ざされる雪深い山間部の山奥の集落（住民は6世帯16人だけ）から、「春を呼ぶ雪上アート」のイベントが応募された。◆　限界集落と言われて久しく、何も出来ずに黄昏ていく集落と言われても「それでも集落がまとまれば地域おこしができる」と一致団結、地域外へ拡げる命運をかけた応募だったという。◆　地域再生をかけたイベントは、米の収穫後にとられる籾殻の燻炭で、広大な雪原に協同制作のアートを描く肝っ玉が大きくなるイベントだ。日常生活から産する燻炭で、自分たちが生活する大地に描く協働のアートは、審査会場に参集した人達を魅了してしまった。◆　小さな集落から発信されたイベントは全国一の優秀賞に輝いた。地元紙に大きく報じられ市民の祭典になろうとしている。市役所からは祝賀会と地域活動賞もプレゼントされた。◆　主催者からの賞品は、理事長（帝塚山大名誉教授、日本自治体学会代表）の地域づくり講演の開催だ。この3月、現地を訪れイベントを一緒に体験する。光栄にも私も招待を受けた。今から楽しみでワクワクしている。全国の島づくりに島も負けていられない。

（会長　内山　江差夫）

八丈島文化協会　会報　第16号

八丈町三根４８６９－１　八丈島文化協会事務局　Tel／Fax　2－2833

HP: http://www.8jobunka.jimdo.com/　e-Mail: bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp

２０１７年3月3日　発行

第 28 回八丈島文化フェスティバル開催

～ 今年も八丈島の文化が結集しました！ ～

演者総出演のフィナーレ

今年で２８回目となる「八丈島文化フェスティバル」が1月２２日、八丈町多目的ホール「おじゃれ」と町民ギャラリーで、のべ８００人が来場して開かれました。舞台部門には、協会加盟の９団体と一般公募の６団体（うち２団体が初出場）、あわせて１５団体が出演。見ごたえのある演目を披露しました。エンディングでは、フルートとピアノ、マリンバと合唱によるテーマ曲「風の歌」に合わせて参加団体が順番に再登場。大勢の出演者と観客が共に「風のうた」を歌い、華やかなフィナーレとなりました。

来場者のみなさまの感想を、アンケートよりほんの一部ですが、ご紹介させていただきます。「いろいろの文化の集合、歴史など、八丈島ならではと思い、感動、感動の連続で観させていただきました。子どもからシニアまで本当にすばらしいと思います。また来させて下さい。」「みなさんステージの上でイキイキとしていて素敵でした。自分も何かやりたいなと思いました。こんなに多くの方々が色々な文化活動に参加することができるのは、島の暮らしが（余暇や人間関係など）豊かな証だなと感じます。」「日ごろのわずらわしさ、せわしなさを忘れて、ゆったりと素敵なステージを見せていただき、ありがとうございました。これからも末永く続けて下さい。」

１６日からスタートした展示部門には、布絵本・布遊具のブースのほか、５ 人が組み木絵、流木アート、自然素材のクラフト、とんぼ玉、刺繍作品、粘土作品などを出展し、「どの作品も素晴らしい。すごいとしか言えません（アンケートより抜粋）」など、とても好評でした。

今年も、多くの方々のご支援とご協力のおかげで、フェスを無事、終了することができました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

（八丈島文化フェスティバル実行委員会事務局長　山下久美子）

司会も楽しく

① 八丈太鼓　月曜会

② コウ リマ ナニ エ

③ 無名劇団（仮

④ 三線愛好会「美（ちゅ）ら島」

⑤ カ レオ オ ラカ イ イアパナ ～
カ パー フラ オ カウルレファ

⑨ 檜之扇会

⑩ 日本民謡 朝元会

⑬ Heat up（ヒートアップ）

⑭ 八丈島 Soka 栄光バンド

⑮ 声楽アンサンブル
Con Anima（コン アニマ）

⑥ Gold Breath（ゴールド ブレス）

⑦ メグまゆ

⑧ フラメンコサークル

⑪ 八丈混声合唱団

⑫ 八丈島民謡保存会（加茂川会）

町民ギャラリーでの作品展

大盛況の
町カフ

「ないものはない！」からの出発

第72回 八丈島民大学講座　「 僕たちは島で、未来をみることにした 」

地域創生の伝道師　阿部裕志さんが講演

過疎化・少子高齢化・財政難は、一部大都市圏を除く日本全国、特に僻地離島にとって深刻な課題となってる。今回の「島民大学講座」は、「三重苦」を克服して、全国にその体験を発信している島根県隠岐郡海士町の阿部裕志さん（株式会社巡の環代表）を講師に迎え、２月 11 日・12 日の２日間、七島信用組合ホールで行われた 180 分の講座に、延べ 121 人が参加した。

島根半島の沖合 60 kmの日本海に浮かぶ隠岐諸島の一つ中ノ島が、海士町。本土からは高速船かフェリーで２～３時間。冬は強い季節風のため欠航が多く、「孤島」と化すが、対馬暖流のもたらす海の幸、豊富な湧水で、半農半漁、自給自足が可能。奈良時代からの流刑地としても知られる。1950 年頃には 7000 人だった人口が、2015 年には 2353 人に。高齢化率は現在 40.9%、出生率 1.82。離島振興法などで社会資本は整備され、住民の暮らしは改善されたが、町の借金も膨らんだ。公共事業で生かされてきた島。

2002 年に当選した町長のリーダーシップの下、町職員と町民が危機感を共有し行財政改革に取り組んだ。中・長期的には、第１次産業の再生で島に産業を創って雇用の場を増やし、外貨を獲得して島を活性化する戦略に基づき、観光と定住対策を担う交流促進課、第 1 次産業の振興を図る地産地商課が中心となって「島まるごとブランド化」を目標に東京で認められる商品の開発を行った。キーワードは「海・潮風・塩」。町が募集した商品開発研修生が提案した「島じゃ常識『さざえカレー』」の今年度の売上げ目標は３千万円。U・I ターン者と地元漁師が協力した「隠岐海士のいわがき」、獲れたての味をそのまま封じ込める冷凍法 CAS の導入で流通のハンディを克服した。「島生まれ、島育ち、隠岐牛」は建設業者が生き残りをかけて参入した成果で、他町村にも波及している。

こうした運動を展開した結果、356 世帯、521 人の移住者が定住、総人口は増えないが活力人口が増えている。都会の若者が求めていた活躍のステージと、島が求めていたやる気とスキルのある若者がうまく融合して島の発展の力になっている。若者・よそ者・馬鹿者が島興しの原動力なのだ。

2005 年から、持続可能な地域社会を創る「人間力推進プロジェクト」が始まった。教育・福祉・財政の連携による「人間力溢れる海士人」の育成を目指す取り組みである。中学生が、修学旅行で一橋大・東大・京都造形大などの学生に海士町をテーマにした講義を行う。若手講師と都会の若者が海士の小中高校で行う出前授業「AMA ワゴン」は 2006 年から３年間で 19 回実施した。この活動をきっかけに海士に移住し、町の「人づくり」に大きな影響を与えている例もある。

持続可能な地域社会を創る「人間力」として「志・結・智・地・情・健」の６要素を考えている。これらを育てるために、①保・小・中・高の連携教育、②中学校のエコ改修と環境教育の展開、③島まるごと図書館構想の推進、④食育、⑤地域教育、⑥島留学などを進めている。入学者が減り廃校の危機にあった県立高校の存続は、島の存続に直結するところから、「高校魅力化プロジェクト」を推進し、全国からも生徒が集まる魅力的な高校づくりに取り組んだ結果、2008 年に 89 人にまで減少した生徒数が、2016 年には島外からの入学者 28 人、全校で 180 人になった。

第 2 日目は、前日報告された海士町の取り組みを振り返り、受講者がそれぞれ疑問や意見を述べる簡易型パネルディスカッションが行われた。高校生から年配者まで、島に生まれ育った人、最近島外から移住した人など、報告への感想や島への思いを語り合った。